

営農だより

中干し後は
常に田面が湿った状態の
飽水管理を
徹底しましょう!!



7月のポイント～10の推進技術・5つの1ヶ月対策～ (営農ブックP15、16参照)

- 7月10日までの畦畔の追加除草
- 水稲の生育ステージにあわせた適期防除の実施
- 中干し後から出穂までの約1ヶ月の飽水管理

水管理の ポイント!

- 間断通水を徹底し、根の活力を維持してください。
(フェーン現象が予想される時は事前に通水し、土壤に水分を補給しましょう)
- 稲体の水分蒸発量が最も多くなるので通水管理に努めましょう。
(特に穂が出る前の時期は、水田に水がある状態にしましょう)

7月			8月			9月
上	中	下	上	中	下	上

2日～4日毎の通水による飽水管理の徹底! (常に田面が湿った状態)

コシヒカ리의出穂予想と穂肥施用(10a当たり)

出穂予想 7月24日～26日

※今後の天候次第で早まることがあります。

◎優米味(ゆめみ)R(16-5-10)の場合

◎有機入いしかわ穂肥一発055(20-5-15)の場合

穂肥1回目	7月8日～10日	穂肥2回目	7月15日～17日
-------	----------	-------	-----------

1回	7月8日～10日
----	----------

※葉色が濃い場合は2～3日施用日を遅らす。

《コシヒカ리의穂肥1回目の診断目安》

1株莖数	葉色	施用時期(幼穂長)	優米味(ゆめみ)R	有機入いしかわ穂肥一発055
少ない(21本以下) 条間が奥まで見える	適正 3.5	標準(15mm)	17kg	24kg
	やや濃い 4.0程度	2日遅く(20mm)	14kg	22kg
適正 (22～25本) 条間が手前30～50m くらいまで見える	やや薄い 3.0程度	2～3日早く(10mm)	15kg	18kg
	適正 3.5	標準(15mm)	13kg	18kg
多い (26本以上) 条間が見えない	やや濃い 4.0程度	2～3日遅く(20～30mm)	9kg	16kg
	適正 3.5	標準(15mm)	8kg	16kg
	やや濃い 4.0程度	2～3日遅く(20～30mm)	7kg	14kg
	濃い 4.0以上	穂肥1回目は施用しない。穂肥2回目の時期に葉色、草丈の状態を見て施用。		

《穂肥2回目の目安》1回目施用の7日後に優米味(ゆめみ)Rを基準量(14kg/10a)どおりに施用する。
(有機入いしかわ穂肥一発055を1回目で施用した場合、2回目の施用は必要ありません)

※地力が高い圃場や前年倒伏した圃場では、上記目安より2～3kg/10a減らしましょう。

※圃場毎に幼穂長、生育状況を確認しましょう。

※草丈が長くなっている圃場では、倒伏防止のため1回目の穂肥の施用を過剰にならないように注意しましょう。

※基肥一発肥料を施用している場合は必要ありません。(必要な場合は随時お知らせします)

※今後の天候次第で変動することがあります。

ひやくまん穀の出穂予想と穂肥施用(10a当たり)

出穂予想 8月2日～4日

★現時点で幼穂は確認されていません。圃場毎に幼穂長、生育状況を確認しましょう。

◎優米味(ゆめみ)R(16-5-10)の場合

◎有機入いしかわ穂肥一発055(20-5-15)の場合

穂肥1回目	7月13日～15日	穂肥2回目	7月23日～25日
-------	-----------	-------	-----------

1回	7月13日～15日
----	-----------

※葉色が濃い場合は2～3日施用日を遅らす。

《ひやくまん穀の穂肥1回目の診断目安》

葉色	幼穂長	優米味(ゆめみ)R	有機入いしかわ穂肥一発055
やや薄い 3.5程度	2mm	16kg	35kg
適正 4.0		14kg	33kg
やや濃い 4.5程度		12kg	30kg

《穂肥2回目の目安》1回目施用の10日後に基準量(23kg/10a)どおりに施用する。

(有機入いしかわ穂肥一発055を1回目で施用した場合、2回目の施用は必要ありません)

※地力が高い圃場や前年倒伏した圃場では、上記目安より2～3kg/10a減らしましょう。

※草丈が長くなっている圃場では、倒伏防止のため1回目の穂肥の施用を過剰にならないように注意しましょう。

※基肥一発肥料田の上乗せ追肥→7/15以降の葉色が4を下回る場合、出穂10～7日前に優米味(ゆめみ)Rで13kg/10a(窒素成分で2kg/10a)施用する。

生産履歴記録簿を記帳しましょう!

7月10日までの雑草地の除草で斑点米カメムシ類の生息場所を減らしましょう。

基幹防除(粒剤の場合)

《ゆめみづほ》

	薬剤名	散布量(10a当たり)	使用時期	防除時期	適用病害虫名	使用回数	使用方法
1回目	イモチエース スタークル粒剤	3kg	収穫35日前まで	出穂7日前	いもち病・穂枯れ・紋枯病・ウンカ類 カメムシ類・変色米・墨黒穂病・ ツマグロヨコバイ・フタオビコヤガ	1回以内	湛水状態で均一散布
2回目	スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	出穂7～10日後	ウンカ類・ツマグロヨコバイ・ ニカメイチュウ・イネドロオウムシ カメムシ類・イネミスゾウムシ	3回以内	湛水状態で均一散布

《コシヒカリ》

	薬剤名	散布量(10a当たり)	使用時期	防除時期	適用病害虫名	使用回数	使用方法
1回目	フジワラップ粒剤	4kg	収穫30日前まで	出穂7日前	いもち病・ウンカ類・ニカメイチュウ カメムシ類・穂こらじ病	2回以内	湛水状態で均一散布
2回目	スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	出穂7～10日後	ウンカ類・ツマグロヨコバイ・ ニカメイチュウ・イネドロオウムシ カメムシ類・イネミスゾウムシ	3回以内	湛水状態で均一散布

コシヒカリの 倒伏指標

時点	イネの様子・型
出穂25日前	●主幹上位2葉目(止葉から3葉目)の葉身長が42cm以上の場合
出穂10日～15日前	●草丈が90cm以上の場合 ●第5、4節間が合わせて12cm以上の場合

倒伏軽減剤

倒伏は、品質の低下、収穫のロスを生産面では大きなマイナス!!
倒伏が懸念される場合は、最後の手段として倒伏軽減剤の散布を検討する。

薬剤名	散布量(10a)	使用時期	使用回数	散布時の注意事項
スマレクト粒剤	2～3kg	出穂10日～15日前 (厳守)	1回以内	○湛水状態で均一に散布する。 ○散布後7日間は、落水やかけ流しはしない。

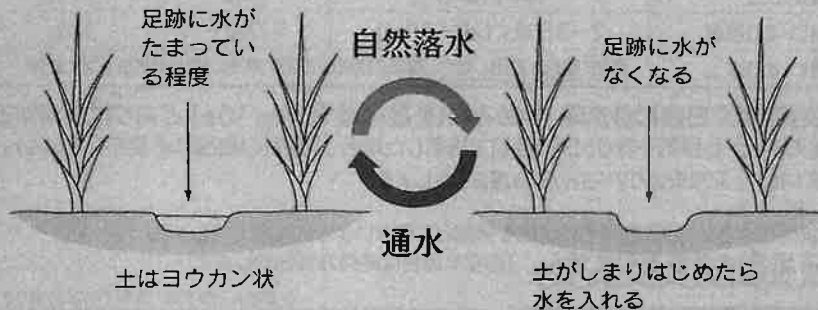
～うまい・きれいな加賀米づくりに向けて～

幼穂形成期以降は飽水管理で根を健全に

収量・外観品質・食味の三拍子揃ったお米を生産するためには、登熟を向上させることが重要です。

幼穂形成期以降(コシヒカリ:7月初旬以降)は
間断通水を実施し、土壌を飽水状態に保って下さい。
特に出穂期から7日間程度は稲体の水分蒸散量が
最も多くなるので、通水管理を徹底して下さい。

飽水管理とは



このサイクルを刈り取り直前まで繰り返す!!

(特に出穂後20日間は粒の大きさと収量を決めるので要注意!)

- ◎台風の接近が予想される場合は、事前に深水とし、フェーンや強風の被害軽減を図る。(台風の通過後は速やかに排水する。)
- ◎高温となる日中の湛水は根を痛めるので避ける。通水は夕方か朝方とし、根の健全化に努める。
- ◎集落ぐるみで計画的な水利用に努める(溝切りの溝に水を通すと効率的)

令和7年度に大麦を出荷される生産者の方へ

令和7年産大麦を出荷予定の方は出荷契約書の提出が必要になりますので、出荷契約書を記入・提出されていない方は支店TAC又営農推進課までご連絡をお願い致します。

※出荷契約書が**未提出**となりますと、転作奨励金等の交付金の**交付対象外**となります。